佳作

山のぼりで楽しい思い出ができた

茨城県 つくば国際大学東風小学校二年　塚脇 克斗

夏休みがはじまってすぐ、ぼくはおばあちゃんとおとうさんと三人で山形けんの月山に山のぼりに行きました。

山はまだ雪がのこっていて、すずしくてさわやかな気もちになりました。でも、ごつごつした大きい岩がゴロゴロころがっていて、あるきにくくて、すこしあるいただけでハァハァといきがきれてしまってつかれやすいところだとはじめてしりました。

朝はやくからのぼりはじめて二じかんくらいたっても、まだまだちょう上につきません。「ちょう上はまだかな、ぜんぜんつかないな」とくたびれはじめたとき、みんなで休けいをとることにしました。お茶をのんだり、つめたいゼリーや、おばあちゃん手づくりのうめぼしをたべたら、力がわいてきて、ちょう上までがんばるぞという気もちになりました。

そろそろ出ぱつしようとしたときに、三人組のおばさんたちがおでこのあせをぬぐいながらハァハァといきをきらして山から下りてきました。とてもつかれているみたいだなとぼくは心ぱいになりました。

そこで、おもいきって、

「こんにちは！うめぼしたべますか？ぼくのおばあちゃんがつくったんです。おいしいですよ。」

と声をかけてみました。おばさんたちに、うめぼしをたべ元気になってほしかったからです。すると、ひとりのおばさんが、

「まぁありがとう。ひとついただくわ。」

とニコニコわらいながら言ってくれました。そしてたべると、

「まぁおいしい、あなたのおばあちゃんがつくったの？どうやってつくったのですか？」

とたのしいおはなしがはじまりました。

ぼくはみんなが元気になってとてもうれしい気もちになりました。また、りょうり上手なおばあちゃんがいてくれてうれしくなったし、さすがおばあちゃんだなと思いました。

おはなしがおわっておばさんたちとわかれるとき、こんどはおばさんたちからおれいにとおせんべいやチーズケーキなどおいしいおやつをたくさんいただきました。そしておたがいに「ありがとう」と言っておわかれしました。すこしまえまでくたくたにくたびれていたけど、おばさんたちに会えて、山のぼりがとてもたのしいじかんにかわりました。会えてよかったなと思います。

そのあと、ちょう上につくまで、一回もあきらめないでがんばりました。ちょう上についてたべたおにぎりのあじはいままでで、一ばんおいしかったです。

ただつらいなと思いながら山をのぼるのではなくて、すれちがうたくさんの人とあいさつをしたりおはなしをして、山のぼりがとくべつでたのしいじかんになりました。

おとうとも、もうすこし大きくなったらかぞくみんなで行きたいです。山のぼりをもっともっとたのしみたいと思います。